

アカデミックフェス 事後レポート

企画名：共創教育ネットワーク

企画名（英語）：Co-Creating Education Network

時 間：13:00～14:30

会 場：アカデミーコモン 2F ROOM-B（A6会議室）

登壇者：基調報告(1) 阪井和男（明治大学法学部教授）

(2) 福原美三（明治大学学長特任補佐／JMBOOC 常務理事）

事例報告(1) 齊藤剛（PwC Japan グループパートナー）

(2) 吉澤潔（明治大学社会イノベーション・デザイン研究所）

特別コメント(1) 井坂康志（ドラッカー学会理事）

開催概要：

共創教育ネットワークでは、広く社会との連携を広げて、教育に希望をもつすべての人々が参集し社会と連携した能動的で主体的な深い学びが生まれるプラットフォームを創り出そうとしています。社会的アクティブ・ラーニングの先進的な実践拠点としての場を提供し、社会の構成員の幸福や社会課題の解決や社会的価値の長期的な発展を狙ったテーマとして社会的ビジネス・プロジェクトを扱い、市民性創造の場づくりを推進するのです。

開催概要（英語）：

In the co-creating education network, we are going to create the platforms for the active, independent deep learning. We provide the place as an advanced practice base of the social active learning. For long-term development of the social value, we practice a social business project and aim at the solution to happiness of the social member and social problem. We promote the making of place of the citizenship creation in this way.

開催内容：

全体テーマを「明治大学共創教育ネットワーク ～「市民性の創造」教育プラットフォームとしての MOOC～」として上記登壇者の講演ののち、約 30 名の参加者とディスカッションを行った。

はじめに、阪井和男が開催趣旨として「私立大学の原罪を問う～社会的アクティブ・ラーニングによる「市民性の創造」を目指して～」と題する講演を行った。ミスマッチ学生の大量発生という私立大学ビジネスモデルに内在する問題点を「私立大学の原罪」として捉える見方を提示し、これを解消するキーコ

ンセプトとして「市民性の創造」が提案された。特に、第2次大戦後のヨーロッパにおける「市民性」の起源と教育の関係を振り返りつつ、市民性の創造にかかわる最新研究が紹介された。それは、自他の好感度を意識と無意識の両方で測定することで、協働的な活動を経験する前後で無意識の自他好感度が著しく上がることなど、意識の変容の前兆を捉えたものである。最後に、明治大学における展開例として共創教育ネットワークを論じた。

次に、福原美三は『「市民性の創造」教育プラットフォームとしてのMOOC』と題し、世界のMOOC(Massive Open Online Courses)の現状を報告し、西オーストラリアのCurtin大学の事例から、大学講義のMOOC化と講義内容の体系的構造整理のアイデアが示され、MOOCを活用したハイブリッド講義、IMSデジタルバッジによる修了証のデジタル化、MOOCベースの学位取得プログラムの提案が示され、今後の課題が検討された。

吉澤潔からは「信州エクスターンシップ2016-2018 実証実験の成果と課題」と題した事例報告が行われた。これは2016年夏から3年間、毎年36名前後が参加する地域滞在型経験学習プログラムである。特徴は、(1)「本気のコミュニケーション」開発、(2)大学キャリア教育との結合、(3)地域協働組織による受入・教育参加——にあり、地域滞在型・学外経験学習によって、学外学習プログラム・アクティブラーニング、早期キャリア学習プログラム、異文化環境でのコミュニケーション経験学習、地域経済社会との共育プログラムの実践が報告された。今後、共創教育ネットワークとJMOCOCとの共創によって、実践的な産学協働型「共育」システム開発の〔協働的なプラットフォーム〕へと発展させることが提案された。

事例報告の2件目には、認定NPO法人キーパーソン21の代表理事・朝山あつこ、および理事・齊藤剛から、「わくわくエンジン®の活動は大学の導入教育に有効か」と題し、「わくわくエンジン®」を発見すると、社会の中でエネルギーの行先がわかり、自分を活かせるようになるという実践が紹介された。この実績をもとに、主体的でイノベティブな学生創出のための社会実装型市民性教育への展開が提案された。

最後に、フロアを交えた議論を行った。終了後には、場所を研究棟第2会議室に移し、約20名の参加を得て、アカデミックフェスでの論点整理と今後の検討・推進の方向性が確認された。

以 上